

# 青い空に浮かぶ 白い雲 173

— その子のよさに出番を —

東大和市教育委員会 教育長 真如昌美

## その子のよさ、その先生のよさ にも出番を

卒業式が終わり次は入学式。

いつもの「友達」がそばにいる学校があれば、その子にとって初めて通う学校もある。いずれにしても、4月は児童も生徒も少し落ちつかない季節。そして先生たちが子どもの名前を覚えることでさえひと苦勞する4月です。

一人一人には必ずよいところがあります。そしてそのよさを見つけ励ます先生がいます。さらに、その先生のよさを見つけ、子供や先生に声をかける「校長先生」がいます。

感じてください、見つけてください、その子のよさを。そしてその子のよさに出番をお願いします。  
( 入学式 小学校4月6日 中学校4月7日 )

## 野球の思い出

今年も選抜高校野球が、兵庫県西宮阪神甲子園球場で開幕し熱戦を繰り広げています。そのはるか昔、私には、忘れられない全国高校野球への東京代表を決める大会がありました。

忘れられないあの日の思い出

教育庁体育部体育健康指導課に勤めていた若きころの話。

その夏、全国高等学校野球大会への東京代表校を決める大会が神宮球場で間もなく始まるうとしていました。

その日の私の役割は、都知事選ばれたばかりの石原慎太郎さんを警備の人と一緒に控室にご案内すること、そして、石原都知事に始球式の前の練習をもらうことでした。控室には石原都知事、朝日新聞社の代表がソファーに、そして私はグローブを持って横に立ち、時計を見ていました。

S 「それでは投球練習を行います」

都知事「練習はいらない」

S 「えっ、せっかくグローブを用意しましたので私と軽く練習をやってください」

都知事「しようがないな、人のいないところを探してきなよ。」

S 「それでは投げます！ あっ！すみません！」

都知事「野球やってたと言ったじゃないか」

S 「緊張してました。すみません」

(途中から女子高生が集まり、その後、写真に応じる)

「最後に始球式ですが、万一ということもありますので、ボール三個にサインをしていただきたいと思えます。投げるのは一球で、残りの二個は念のために私のポケットに入れておきます。では、よろしくお願いします。」

すべてうまく進んだ忘れられないあの日の思い出。

お亡くなりになったことを知り、遠かった方が今、近くの人のように感じます。

